

倉橋惣三物語

上皇さまの教育係

倉橋耀子・倉橋麻生 著

◆発売日：2021年11月22日 ◆予価：1980円(税込) ◆四六変形判 320ページ
◆ISBN：978-4-06-525829-3 ◆講談社 第六事業局 青い鳥文庫編集チーム



写真／お茶の水女子大学所蔵

上皇陛下の幼少期に教育係を務めた
教育者・倉橋惣三の伝記小説
“日本のフレーベル” “近代幼児教育の父”
と呼ばれた人物の、波乱万丈の生涯とは



写真／お茶の水女子大学所蔵

倉橋惣三（くらはし・そうぞう）明治15年生まれ。昭和30年没。日本幼児教育の先駆けとなった東京女子高等師範学校附属幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）で主事を務める。『婦人と子ども』（後の『幼児と教育』フレーベル館）3代目編集責任者、『コドモノクニ』編集顧問を努め、昭和23年には、日本保育学会初代会長となる。

子どもは自ら育つ——自発性を重視した
倉橋惣三の教育が、いま求められている

倉橋惣三は、大正期から昭和にかけて活躍した教育者。昭和3年より合わせて6年間にわたり、昭和天皇皇后両陛下に御進講を行い、その後、皇太子殿下（現上皇陛下）の教育係として2年間、出仕した。

学生時代から幼児教育に興味を持ち、やがて教育者となった惣三は、「子どもの友達」であろうとし、幼児教育の改革を次々行っていく一方で、息子との関係に悩む一人の親でもあった。

小説家・倉橋耀子氏と、娘の麻生氏が、遺された日記をはじめとする貴重な資料から、倉橋惣三の素顔とその理念に迫る。実話をもとにした感動の伝記小説。

※史実に基づき、一部創作を加えた伝記小説作品です

倉橋耀子（くらはし・ようこ）広島県生まれ。上智大学文学部卒業。出版社勤務、フリー編集者、コピーライターを経て、作家デビュー。『風を道しるべに……』（講談社X文庫）、『いちご』『青い天使』『ドリームファーム物語 ペガサスの翼』『月が眠る家』『パセリ伝説』『魔女の診療所』『ドジ魔女ヒアリ』『ポレポレ日記』『夜カフェ』『生きているだけでいい！～馬がおしえてくれたこと～』（すべて講談社青い鳥文庫）、『風の天使』（ポプラ社）など、著書多数。

倉橋麻生（くらはし・まお）東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒、上智大学博士前期課程修了。卒業後、宮内庁に勤務。事務官として皇室業務にあたる。現在は企業のEGG/SDGs調査の仕事に携わっている。倉橋耀子の長女であり、倉橋惣三のひ孫にあたる。

KODANSHA